

議員定数に関する調査特別委員会記録

令和6年12月23日（月）午後1時00分～午後1時55分（9階909会議室）

○出席委員（11名）

委員長	半沢 正典
副委員長	斎藤 正臣
委員	高木 直人
委員	浦野洋太郎
委員	佐藤 勢
委員	山田 裕
委員	遠藤 幸一
委員	根本 雅昭
委員	川又 康彦
委員	羽田 房男
委員	黒沢 仁

○欠席委員（なし）

○議会事務局出席者

議会事務局次長兼総務課長	山田 正明
総務課庶務係長	神野由希子
議事調査課長	加藤 淳
議事調査課課長補佐兼議事係長	梅津 司
議事調査課主査	佐藤 祐介
議事調査課主査	本田 雅大

○案 件

- 1 本市議会議員定数のあり方について
- 2 その他

午後1時00分 開 議

（半沢正典委員長） これより議員定数に関する調査特別委員会を開会いたします。

本日の委員会の内容については、お手元の次第のとおりであります。

それでは、次第に基づきまして委員会を進めてまいります。

1、本市議会議員定数の在り方についてであります。

前回の委員会では、人口、面積、財政状況及び市の事業課題、類似市の議員定数の観点からの各会派の意見を委員会が開始して以来初めてご提示いただいたところであります。今回は、各会派の意見に対する掘り下げを行いまして、それぞれの考え方を理解した上で、委員会としての合意形成を図るべく意見の集約を図ってまいりたいというふうに考えております。

会派の意見の修正の内容や他の会派の意見への感想、また総合的な観点での議員定数の在り方に関する意見を資料の①として取りまとめを行いました。まず、基本条例の項目に従ってこの5つの項目ごとの意見等について改めて変更点等につきまして各会派から意見を伺いたいと思います。

それでは、資料の1をご覧ください。まず、項目の1、人口の観点から見た議員定数の在り方について、新たな記載がある会派について意見をいただければというふうに思っております。

まず、真政会。

（浦野洋太郎委員） 真政会ですが、人口の観点からの部分につきましては、感想ではありますが、他の会派からの将来の人口を見据えた、考慮したというような意見等もありまして、人口ビジョンなど将来の人口減少も加味した上での議論が必要と考える感想であります。

（半沢正典委員長） 真結の会さん。

（川又康彦委員） 真結の会では、前回5つの項目について基本的には現状維持、意見として定数削減という意見もありましたが、今回については、前回の委員会において最新の福島市の人口推計が想定よりも相当、1年早く人口減少が実際に進んでいるということが示された中、人口の観点から見た議員定数の在り方については減とする、ただ慎重な意見もあったというふうに変更させていただきました。

（半沢正典委員長） ほかの会派さんについては現状維持、会派の意見は特になしと、共産党さんも現状維持というようなことで記載がないのだろうと。

（山田 裕委員） 現状維持というか、修正はありません。

（半沢正典委員長） 現状維持ではなくて、修正はなし。

（山田 裕委員） はい。

（半沢正典委員長） 大変失礼しました。

修正がないということで記載がないというふうに理解しておりますが、この件について何か皆さんのほうから他の会派の確認とか、会派内での議論等について開陳すべきところがありましたらご発言いただければと思います。

【「なし」と呼ぶ者あり】

(半沢正典委員長) 特段ないようですので、次の2の市域の面積の観点から見た議員定数の在り方については、特段、記載の表現はちょっと違いますけれども、前回提出した内容と同じというようところで理解してよろしいですか。

【「異議なし」と呼ぶ者あり】

(半沢正典委員長) ということで、これについても特段意見の開陳とか確認とか、面積について発言がありましたら挙手をお願いしたいと思います。

【「なし」と呼ぶ者あり】

(半沢正典委員長) それでは、ないようですので、3の財政状況の観点から見た議員定数の在り方について協議いたしますが、これについても2の面積同様に特段前回示していただいた内容からの変更がないというところだろうと思いますけれども、同じように発言のある方は挙手の上、発言をお願いいたします。

【「なし」と呼ぶ者あり】

(半沢正典委員長) それでは、4の項目に移ります。市の事業課題の観点から見た議員定数の在り方についても2、3同様に特段前回提示していただいた各会派の考え方から変更がないというところだと思いますが、これにつきましてもまた意見の開陳等がありましたら挙手の上、発言をお願いしたいと思います。

【「なし」と呼ぶ者あり】

(半沢正典委員長) これについても特段変更なしというところだろうと思います。

次に、5の類似市の議員定数の観点から見た議員定数の在り方についてであります。真結の会さんのほうから新たな意見が記載されておりますので、こちらのほうのご説明をお願いしたいと思います。

(川又康彦委員) 類似市ということで、前回我々の会派では現状維持という形で出させていただきましたが、その数字の根拠となる指数が、他会派の中核市の類似市を参考にさせていただくと、多少数字に誤りというか、訂正すべき点があったなということがありまして、その上で平均を見る際に標準偏差という部分はどこまでのプラス・マイナスが許容範囲なのかということ考えた際に、現状の定数というのは許容範囲にはありましたが、前回他会派で示いただいた中核市の人口に近い類似市の部分を考えた際には、本市においても減少という形が適当ではないかということで、定数は減というふうにさせていただきました。ただ、会派の中でも慎重な意見もあったことを併せて申し添えておきます。

以上です。

(半沢正典委員長) ちょっと確認なのですが、この標準偏差4というのはいろいろ中核市の中でも1から幾つかのランクがあって、福島市は4のランクに入って、4のランクが28から36の間というような感じの捉え方をされたということですか。

(川又康彦委員) プラス・マイナス4ずつあるのはそれほど大きな逸脱ではないという感じです。ランクが1から5まであるとかということではないです。

(半沢正典委員長) そうすると、32が基準になって、それにプラス・マイナス4だから、28から36という意味なのですか。

(川又康彦委員) はい。

(半沢正典委員長) 32が標準偏差の基礎値というか。

(川又康彦委員) 平均です。

(半沢正典委員長) この中に収まっていればということの中で、減とすべきだが、慎重な意見もあったということなのですね。

(川又康彦委員) はい。

(半沢正典委員長) そのような形で確認をさせていただきましたが、ほかの会派さんについては特段記載がないので、前回提出した内容から変更がないというような理解をしておりますが、これにつきまして何か感想、そして意見とか、また記載はないけれども、会派内の話合いの内容で開陳すべきところがありましたら発言を求めます。

【「なし」と呼ぶ者あり】

(半沢正典委員長) それでは、それぞれ各項目、5つの項目につきまして各会派の皆さんから変更があった点につきまして特に意見開陳を頂戴しました。

そして、これを受けて、次に総合的な観点での議員定数の在り方に関する意見を各会派ごとに伺いたいと思います。同じ資料にまとめてありますので、真政会のほうから意見の集約を発言いただきたいと思います。

(佐藤 勢委員) 真政会としては、現在の人口数、類似市の議員定数の状況に将来の人口減少を見据えれば議員定数削減は避けられないけれども、他会派の意見も理解できる点が多く、また議会の安定性の確保も考慮すると、議員定数の在り方については、前回提出時には複数の議員定数削減を想定していましたが、今回は最小限にとどめるべきというふうな考えであります。

また、追加なのですが、今回の議員定数の改正後は議会の安定性確保の観点から改正後の定数で複数回選挙を行うべきというふうな意見もありました。

以上になります。

(半沢正典委員長) それでは、真結の会さん、お願いします。

(川又康彦委員) 真結の会では、前は現状維持、ただ減の意見もあったということにさせていただきましたが、今回は新たな人口減少の数字が示された中で、総合的に勘案して、定数については減とすべきとなっております。ただ、会派の中にも慎重な意見もあったということです。

以上です。

(半沢正典委員長) 続きましては、市民21さん。

（羽田房男委員）前回の人口の観点から見たところが一部入っておりまして、それは頭のほうです。この東北の部会の各市議会のところの結論とすれば、カバー人口は青森、盛岡、秋田、山形、福島ではちょうど中間的な指数を示しているということですので、その前段は前回のところと数字的には一緒です。

その後ですが、福島市の将来推計人口ということで、委員長のほうからご提示いただきました2023年の国立社会保障・人口問題研究所結果、そこから見た人口の関係ですけれども、2020年と2025年及び2035年比では、2020年は28万2,693人で、2025年は27万3,384人と9,309人の減少という想定をされておいて、2030年は2万295人の減少と推計人口が減少しております。また、2025年と2030年を比較しますと1万986人の減少で、2035年には2万2,972人減少すると推計されております。

また、平成23年4月の地方自治法改正において、議員定数の上限については、第29次地方制度調査会の今後の基礎自治体及び監査・議会制度のあり方に関する答申においては、議会制度の自由度を高めるため、定数の決定は各地方公共団体の自主的な判断に完全に委ねることとし、法定上限を撤廃すべきであると、各地方公共団体の自主的な判断に完全に委ねることが強調されていたと思います。撤廃すべきであるとされ、地方公共団体の議会議員定数について上限を人口に応じて定めている規定を撤廃されました。

福島市の議会基本条例では、第31条の2項で議員定数の基準は人口、面積、財政状況及び市の事業課題並びに類似市の議員定数と比較検討し、決定するとされておりますので、福島市の人口ビジョン、これを否定する根拠はどこにも見当たらないということで、よって2年7か月後、2027年の次期改選時の定数は現状維持とすべきですが、2030年、2035年の人口推計は無視できないことから、早期に判断が求められておりますというのが会派の見解でございます。

以上です。

（半沢正典委員長）公明党さん。

（高木直人委員）各項目を踏まえまして総合的な観点から判断いたしますと、現時点における本市の議員定数につきましては現状を維持すべきとの会派の判断に至りました。ただし、これ以上の人口減少が進展した場合は、例えば類似市の動向も見ながら、本市におきましても削減も検討しなければならないという意見もございました。

以上でございます。

（半沢正典委員長）それでは、日本共産党さん。

（山田 裕委員）この間の議論でも明らかになったと思いますけれども、市の事業課題について、人口減少や自然災害の頻発、原子力発電事故からの復興、生活不安や東口再開等々、山積しているという認識では共通しているのではないかとこのように思います。直面する市民の困難に向き合い、解決していく上で議会の役割の重要性を改めて確認するなら、議員定数を増やすことが必要だというふうに思います。

（半沢正典委員長） 今ほど総合的な観点での議員定数の在り方、今まで5項目についてまとめたいて、それを踏まえた上で総合的なということで新たに各会派の意見をまとめていただきました。

確認なのですが、市民21さんの最後の文章の中で、2030年及び2035年の人口推計は無視できないことから早期の判断が求められていますということは、将来の人口減を見据えて定数の減もあり得るというような解釈でよろしいでしょうか。

（羽田房男委員） そうですね。そのように受け取っていただいたほうがかえって、やはり次回ではなくて、人口減少という、私どもが決めた基本条例の中に定数を人口、面積という、人口というものがある以上、そこは捨て切れないということです。将来的にもこの議員定数というのは検討すべきでありますので、早期にというのはどの時期なのかと、現状ではなくてこの次の段階で、記載されているように、2年7か月後は現状維持とすべきですが、人口の減少を、この推計は、このビジョンは否定することができないので、早期の判断ということで、今後は議員定数の削減についても検討することが求められているという、そういう意味でございます。

（半沢正典委員長） この場でただいま各会派の意見の開陳がありましたが、各会派の考え方について確認したいこととか、また自会派の補足説明等がありましたら挙手の上、発言をいただきたいと思います。

（山田 裕委員） 真政会の方にちょっとお聞きしたいのですけれども、前はたしか3議席減という意見だったと思いますが、今回は最小限という言い方なのです。具体的にどういう議席を想定しているのかという、それをお聞きしたいと思います。

（半沢正典委員長） 数については、そこまでは今回求めていないので、これは委員長としてのまとめの中でお話するのですけれども、数のほうの話になってしまうとまた議論がちょっとずれてしまいますので、前回のどのような思いと云々のこと、概略の話にひとまず今回はしていただければと思います。

（山田 裕委員） 分かりました。

（半沢正典委員長） それでよろしいですか。すみません。

（山田 裕委員） 人口減、人口減という、これからの推計とかっていろいろ数字を出していますけれども、人口減少というのは重大な問題なのです。ですから、人口減をつくらないためにどうしていくのかというのが政治の役割だと思うのです。ですから、これから減っていくのだ、減っていくのだということで、それに乗った議論をするという以前に、こういった人口減少をどうやって食い止めようかという議論を優先させるべきなのではないかなというふうに私は思うのです。これは当然国の政治の問題が最大であるかもしれませんが、地方政治においてもやはりそういう立場でしっかり我々が議論しながらどうしていくのかということを真剣に議論しなければならないというふうに思います。

（半沢正典委員長） 今山田委員の発言についてはこの委員会にとどまらない問題になってくるので、

この委員会におきましては議会基本条例の第31条にあります5項目で議員定数の在り方を議論することですので、今のご発言については議会全体の課題ということで捉えさせていただきたいと思うのですけれども、よろしいですか。

（山田 裕委員）はい。皆さんからの発言でちょっと感じたものですから、一言。

（半沢正典委員長）感想ということでお伺いいたします。ありがとうございました。

（川又康彦委員）先ほどの各会派の意見開陳の中においても人口減少という部分は、意見としては現状維持というふうに表現されているところも人口減少は避けては通れないというお話があったと思うのですが、実際に人口減少というのが共産党さんは仮定のお話、未来についてはなかなか難しいのではないかというご意見もありましたが、前回定数削減をした際の推定人口と少なくとも現状でどの程度のパーセンテージで下がっているのかというのはある程度数字でも示されるのではないかと思います。次の改選時期が早ければ2027年、その次も無視できないということであれば2031年という形になるかと思うのですが、少なくとも今年度でもう例えば既に1割は減っているのではないかというようなことが事実としてあるのかどうなのかという部分は、現状のデータとしても示すことは可能なのではないかと思います。その辺の2016年の推計人口というのは、これまであまり1年ごとというのは、ちょっと前の資料で出ていたのかどうか分からないですけれども、私が今見た限りでは今回の委員会の中で示された中では見つけれなかったものですから、その辺を改めて確認させていただければと思うのですけれども。

（半沢正典委員長）今質問の確認ですけれども、我々委員会で示した将来推計人口、人口ビジョンにつきましては前回の資料の再掲という形で載せましたけれども、あくまでも5年刻みということで、我々の選挙の年に当てはめた人口はなかなか推計できないような状況だということで、それが大体1年ごとの人口については推計値が出ているのかというようなところでよろしいですか。

（川又康彦委員）そうです。

（半沢正典委員長）事務局、これについてはいかがですか。

（議事調査課課長補佐兼議事係長）これは統計係にも確認いたしました。社人研で出しているのはやはり5年刻みの推計人口ですので、あとはその5年間の間でこれだけ減っているので、1年ごとに割っていくという算数、数学的な類推をするしかないということでした。なので、基本的に人口の資料として出ているのは5年刻みの推計人口ということで統計係のほうに確認してございます。

（半沢正典委員長）ということは、5年刻みで市のほうも計画とか人口ビジョンなりはつくっていて、各年ごとの人口推計値は出ていないということで、どうしても5年間の中の各年ごとの人口推計値をもし計算するのであれば、算数的な数値の出し方で5年間の減少値を5で割って各年に減じていくというような形ぐらいしか出せないというのが今のお話でよろしいですか。

（議事調査課課長補佐兼議事係長）はい、委員長おっしゃるとおりです。

（半沢正典委員長）ですから、出せないことはないのでしょうけれども、根拠のない数字で1年ごと

の数字は平均して減じていくと大体近い数字は出てくるだろうというところなのだそうです。

（川又康彦委員）前回の委員会で事務局のほうで補記という形で示していただいた2024年の推計人口というのも同じ方法で出したということですか。私はそうは捉えなかったのですけれども。

（半沢正典委員長）2024年、この前出したやつの住基と推計人口、両方出したものについての根拠をお願いします。

（議事調査課課長補佐兼議事係長）こちらについては、直近のデータということでしたので、これは2024年11月1日の推計人口としてお出ししたのは、実際に生の数字、実態に合った数字でございます。

（川又康彦委員）それを2016年のものの、多分毎月同じように直近の数字を出しているのではないかなと思うのですけれども、それをやることはできないのだろうかということです。

（半沢正典委員長）前回変更時の2016年。

（川又康彦委員）そうです。

（半沢正典委員長）定数削減時の。

（議事調査課課長補佐兼議事係長）2016年の時点での生の推計人口が出ればよろしいですか。

（川又康彦委員）そうです。

（議事調査課課長補佐兼議事係長）過去の実際の人口、推計人口と住基人口はありますので、そちらのほうは過去のデータとしてありますので、入手することは可能でございます。

（川又康彦委員）多分それによって今の部分との実データでの人口減少の比率というのが明確になってくるのではないかなと思うのですが、併せて推計をすると、また共産党さんのように確かに来年になったら4,000人下手すると増える可能性もゼロではないわけですから、どうなるか分からないのですけれども、通常なかなかそうはいかないと思うのですが、少なくとも現状の段階で議員定数の在り方について基本条例で定めているように、人口という部分が一番大きなファクターで、それぞれの会派の中でも定数を削減する理由としては人口減少と類似市の部分しか特筆すべきところはなかったわけですので、そここのところできちんとした正確な数字が出てくるというのが議員定数の議論をする上でも非常に重要な要件なのではないかなと思いますので、事務局の方には毎度毎度ちょっと作業を増やしていただいて申し訳ないのですけれども、ぜひお示しいただけるようお願いいたします。

（半沢正典委員長）そうしたら、議員定数を変えて選挙した年でいいのですか、それとも条例提出した時期、両方ですか。

（川又康彦委員）前の定数削減の議論の際の議事録、その他議会での議事録も読ませていただいた限りでは、その推計人口とかという数値についてはあまり言及しているところがそれほど多くなかったように思われましたので、私としては定数を削減した選挙の年を基準にすべきではないかと考えました。

（半沢正典委員長）それでは、今川又委員が資料の要望でありました2016年ですね、そうしますと。

（川又康彦委員）はい。

(半沢正典委員長) 2016年時の年度初めでいいでしょうけれども、年度末か。年度末というか、2016年3月か4月でいいですか。

(川又康彦委員) 今回最新の2024年11月で出していただいたので、もし正式に……

(半沢正典委員長) 前の年の11月。

(川又康彦委員) 11月でも構わないです。

(議事調査課長) こちら前回出した資料と同じ、リンクするようなタイミングの時期で、選挙があった年からの人口、次回までに準備したいと思います。

(半沢正典委員長) 一応資料のほうは次回、これから次回の委員会の話をしますけれども、意見を集約する上で、今川又委員からおっしゃったように、重要なファクターだということは共通認識ありますから、次回の委員会でなくて、まとめり次第、各委員のほうに委員長名でご報告をしたいと思いますので、それで大丈夫ですか。

(議事調査課長) そのような形で、できれば年内までにはまとめたいと思います。

(半沢正典委員長) まとめり次第、各委員のほうにデータとしてお送りしたいと思います。

(羽田房男委員) 先ほど梅津係長から答弁いただいた内容は、7階の図書室に答えは出ていますので、ぜひご覧になっていただければと思います。

(山田 裕委員) 真結の会の方にお聞きしますけれども、前は現状維持ということで報告あったと思うのですが、今回は減というふうに変ったのですね。一番最後に慎重な意見もあったというのが付け加えられていますけれども、この読み方としては、慎重な意見もあったけれども、減とすべきだということと同義語ですか。

(川又康彦委員) 会派の中では減という形で統一させていただいたということです。中には議論する上では慎重に決めるべきだろうという話もあったということです。

(山田 裕委員) 態度が変わった理由というのは人口問題ということなのですか。

(川又康彦委員) 前回の委員会において事務局から、先ほどもお話しし、2016年のものも要求させていただきましたけれども、2024年の最新の推計人口のほうを示していただきまして、これによりますと、福島市が人口ビジョンのほうで推計したいいわゆる本当に減ってしまう最悪の想定というか、人口ビジョンで目標にしている部分よりも相当下回った数字で減っているところを改めて確認させていただいて、ほぼ1年前倒しで進んでいるのではないかという部分が示されたということで、人口減少が想定より早く進んでいるという認識の下に議論させていただきまして、人口減少という切り口からは減だという話が会派の中で統一されたということです。

(半沢正典委員長) ほかにございますでしょうか。

【「なし」と呼ぶ者あり】

(半沢正典委員長) それでは、特段ないというふうに判断をさせていただきまして、まずもって今回は、冒頭に言いましたように、1月から委員会を重ねて、様々なデータ、そして参考人招致、先進地

視察というものを踏まえた上で、前回5項目それぞれ各会派の考えをまとめていただいて、またこの委員会は合意形成を図るという大前提の中で議論をしているということをしっかりと踏まえていただいて、今回総合的な意見という中に他会派の意見を十分に酌み取っていただきながら意見集約を図る、そして合意形成を図る努力を各会派していただいたことに心より正副委員長のほうから感謝を申し上げます。総合的な観点のほうで今回出された意見は、共産党さん以外の4会派については大きく捉えて減、そして削減という文字が出てまいりました。ただ、それぞれ中身についてはまだまだ大きな開きがあるというふうには認識しております。今後のあるべき議員定数については次回以降議論を深めてまいりたいというふうに思っておりまして、今回の各会派の意見を踏まえた上で、次回の持ち帰りシートをちょっとご覧いただきたいと思うのですけれども、今までは数については言及を避けていただきました。といいますのも、委員会として方向性に対する合意形成がなかなか集約を図れないうちに数のほうについてご提示いただくと、どうしても、先進地視察でもそうだったように、数のほうが先行してなかなか議論の集約が図れないというふうに正副委員長として判断したものですから、まずはある程度の方向性を皆さんのほうで見定めていただいてから議員定数の具体的な数についてご提示いただくというような順番にさせていただいたところであります。いよいよ今回、大きな幅の中ではありますけれども、定数減ということを意見の中に書いていただいた会派が5会派のうち4会派ありますので、今後の議員定数のあるべき定数につきまして具体的に、ここに記載されていますように、これまでの委員会での検討を踏まえて、具体的な議員定数の人数と時期等につきまして会派のお考えをご記入いただきたいというふうに思います。それで、共産党さんは各会派、4会派の意見についてそれに歩み寄るという考え方もあると思いますし、独自の考え方もあると思いますので、それについては結果的に考えどおりに記載していただいて構いません。

(山田 裕委員) ですから、その前に、委員長が共産党以外の4会派が減というふうに表明しているって言いましてけれども、実際そうではないと思うのです。正確には減が2会派、現状維持が2会派だと思いますけれども。

(半沢正典委員長) 今申し上げたのは、将来の人口に向けても検討する、考えるべきではないかというような総合的な意見で今回初めて出てきて、それは各会派の委員会の中で合意形成を図るというような観点から出てきたのだらうというふうに推察いたします。ですから、先ほど言ったように、大きな幅の中で減というのがある程度示されたというように正副委員長としては判断をさせていただいたところでありまして。ですから、今回は現状維持でも将来はというようなことも記載もありますし、それを踏まえた上で判断したというところでありまして。

(山田 裕委員) 分かりました。

(半沢正典委員長) 今持ち帰りシートについてちょっと説明をさせていただきましたけれども、皆さんのほうから何か確認すべきところがありましたらご発言をお願いしたいと思います。

(山田 裕委員) 定数の人数と時期ってなっていますけれども、時期というのは次の市議会議員選挙

あるいは次々回の市議会議員選挙というような書き方をするという事なのですか。

（半沢正典委員長） それも含めて全て各会派のほうにご判断をお任せした中で記載いただきたいと思っています。

（川又康彦委員） 今時期について各会派に次期、次の次を含めてお任せするというお話だったと思うのですが、例えば次期は何人、もし次期でないのであれば、次の次であれば何人、このような2つの両論併記みたいなのも構わないということですか。具体的に言うと、私たちの会派はお示したとおり次期減という形ですけれども、それが無い議論であれば、次々回であればそうすると2031年という形になるかと思いますが、その際に例えば人口ビジョンから考えると、2016年からすると1割5分から2割近く人口減少になっているということを踏まえると、次々回だと例えば減少が4人とか5人って書かなければならなくなる可能性もあるのですけれども、それも踏まえて書くということでしょうか。

（半沢正典委員長） 記載方法について特段ここでターゲットを絞ってということは正副委員長としては考えておりませんが、ただ今後議論を集約していく上では、やはりいつの何人とかというような形の記載をしていただいたほうが今後議論の集約はしやすいだろうというふうに踏まえておりますので、できればそのような形で記載していただいたほうが、結局議論の集約は可能かな、しやすいかなというふうには正副委員長としては考えているところであります。

（羽田房男委員） 私のところでは、次回の改選時は現状維持ですと、そこまでしかこの場では議論はできないのではないのかなというふうに思うのです。例えば2031年の改選はこのくらい減るので、このくらい、例えば2名の減をしてはどうかみたいな、そういう先送りの提言というものをこの調査特別委員会の中で結論づける、論じることは果たして正しいのかと言われれば、私はちょっと、このまま全て議員がスライドするわけではありませんので、改選を迎えます。新人の方も立候補されて当選されてくるでしょう。そういうときに私たちが現状で2024年、2025年の段階で2031年は2名の減が求められていますよというような、そういう結論づけというのを私はすべきではないのではないのかなというふうに思うのです。したがって、現状の次期の2027年の定数については結論づけできますが、2031年の改選時の定数はこうあるべきだというのは、私はなじまないのではないのかなと思いますが、委員長、いかがでしょうか。

（半沢正典委員長） なじまないというふうな形は、委員長としての判断はするべきではないと思いますけれども、やっぱり一般論でいえば羽田委員のおっしゃるような形のほうが、要するに改選後の、次の次の定数を今決めるというのはあまりなじまないというのは、一般論としてはそういう形の考え方の人が多いと思うのですが、この委員会はいくまでも合意形成を目指すというような観点から幅広い考え方から議論の集約を徐々に図っていくということを大切に置いているので、間口はあんまり今の時点で狭めるということは考えておりません。ですから、議論の経過でどんどん集約を図っていく中でどういうふうにしていくかということ、今後そういうような議論も中には出てくるというふう

には想定していますが、今回の持ち帰りシートについては次回云々ということになると議論が狭められて、最終的な意見集約を図れないというようなおそれがあるので、間口は広くするという観点からそれにこだわらずということで正副委員長としては考えております。

（羽田房男委員）分かりました。そのように会派で伝えて議論させていただきます。

（半沢正典委員長）よろしくお願いいたします。

（山田 裕委員）今羽田委員の意見に私は賛成ですけれども、今羽田委員の発言の中で、今回会派として報告したのは、次の選挙では現状維持ということまでしか報告していないという発言でした。となると、委員長の先ほどの4会派が減の方向だというような発言ありましたけれども、ちょっとそごが生じているのではないか。正確に言うのだったら、市民21さんとほかの会派は区別すべきだと、そのような表現をすべきだというふうに思いますけれども。

（半沢正典委員長）何度も言うようすけれども、在り方を今検討しておりまして、具体的には最終的には定数まで踏み込まなければいけないということ、現状維持も含めて、増も含めて定数まで、数について踏み込まなければいけないというのがこの委員会の性格だというふうに認識しております。今おっしゃったように、一般論でいえば次回というような形ですけれども、何度も言うようですが、在り方について検討する際に、意見を集約するときにおいて、あまり初めから条件を多く出すと意見を集約できない可能性があるというふうに正副委員長としては考えておりますので、今回は時期も含めて各会派の意見を持ち寄った上で、それから意見集約を図るということですので、市民21さんにつきましても、今回記載しているとおりの現時点ではこのような形の次回は現状維持で、それ以後のことについては人口ビジョンに基づいて減について検討しなければいけないだろうというようなご発言がありましたので、それに基づいて次回持ち帰りシートを記載していただくというところであります。

（山田 裕委員）羽田委員にお聞きします。

今の委員長の説明でいいですか。

（羽田房男委員）中身は記載のとおりで、やはり次回に関しては現状維持すべきということで、先ほど初めのところで委員長のほうからの早期の判断が求められているということはどういうことなのかというお尋ねがありましたので、記載のとおりですけれども、2027年に関しては現状維持でいかがですかという会派の見解です。ただ、それ以降はやはり福島市の人口ビジョンを否定していくという根拠はどこにも見当たらないのです。そうした場合に、幸か不幸か基本条例の第31条には議員定数に関して記載があります。これは、何といたっても私たちが議論をして、議会基本条例というものを策定して、そして確認をしてここまで来ているわけですね。それも無視できないということです。ですから、両方無視する根拠がどこにも見当たらないので、2031年であればそういうところはやはり議員の減というところにも触れざるを得ないのだなという意味での早期の判断が求められているということの記載の仕方です。これはどうしても基本条例の策定の段階で、面積はほとんど、合併しかありませんので、飯野町さんから平成20年に合併をしていただいて、そのときに1名増員ということで、

その次は減ということで、さらに減をしてきたという経過がありますけれども、そういう意味で記載をさせてもらったということで理解していただければありがたいです。

(山田 裕委員) 了解しました。

(半沢正典委員長) それでは、ほかにありますか。

【「なし」と呼ぶ者あり】

(半沢正典委員長) 持ち帰りシートについて今ほど説明をしましたが、いろいろ議論が深まったと思います。質問いただいたので、議論が深まったと思いますが、そのような形で持ち帰りシート、また会派のほうでよく議論して記載の上、提出をお願いしたいというふうに思います。

提出期限につきましては、後ほど閉会後に次回の委員会の日程調整を行いますが、次回の委員会が1月の行事等とか視察等、各委員会の活動等を踏まえたと、1月末を予定しているので、年末年始の休暇も入りますことから、持ち帰りシートの提出期限を1月23日木曜日の17時、23日中をお願いしたいと思いますので、こちらはよろしく願いいたします。もう一度言いますと、持ち帰りシートの提出期限を1月23日木曜日の17時、木曜日中ということでご提出をお願いしたいと思います。

以上で本日用意しておりました委員会の協議事項は終了となりますが、最後に皆さんのほうからその他でありましたらご発言をお願いしたいと思います。

【「なし」と呼ぶ者あり】

(半沢正典委員長) それでは、ないようですので、本日の議員定数に関する調査特別委員会はこれをもって終了といたします。ご苦労さまでした。

午後1時55分 散 会

議員定数に関する調査特別委員長 半 沢 正 典